

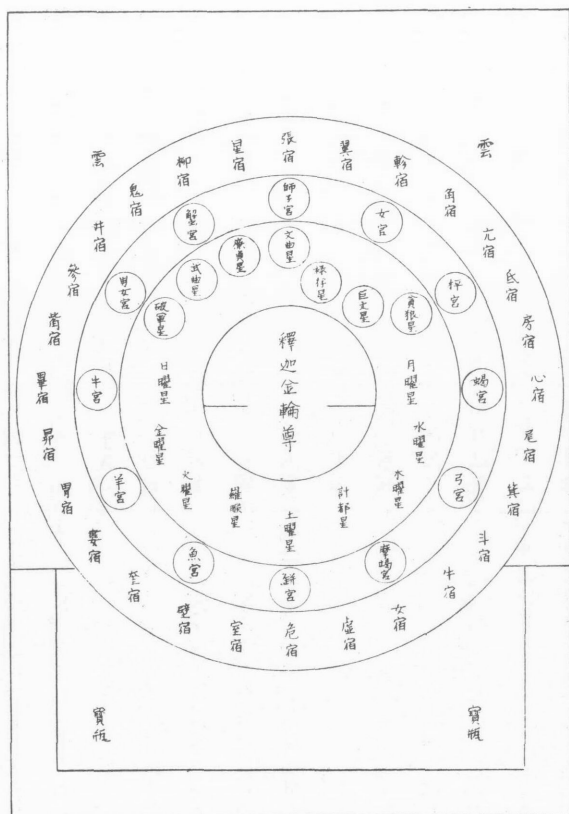
圖版解説

一、二 星曼荼羅

奈良縣 法隆寺 藏

絹本着色 挂幅装 竪一・一八二米（三尺九寸一厘）
横 八三・三米（二尺七寸四分九厘）

北斗法及び諸種の星宿法は、天變を祈り、災妖を攘ひ、或は延命を願ふ等の爲に王朝以來極めて屢々行はれた修法であるが、此處に掲ぐる曼荼羅は之等の修法の本尊として用ひられ來つたもので、釋迦金輪を中心に七星九曜十二宮二十八宿の五十七尊を以て建立し、古くは北斗曼荼羅と呼ぶるゝを常としたものの如くである。唯此の法に用ひらるゝ曼荼羅は既に門葉記卷第百六十五、勤行法補一之四、北斗法四星曼荼羅諸尊名



圖版解説

に「凡北斗曼荼羅異圖多之、不遑于記之」と云ふ如く、諸圖像本の擧ぐるもの甚だ多く、また九曜十二宮二十八宿等は胎藏外金剛部以下それぞれに像容の所傳があり、七星また同様であつて、容易にその種類を盡し、系統を明らかにし難い。併しながら北斗法等の本尊として最も普通なりしは本圖の如き五十七尊を以て建立する圓又は方の三或は四重曼荼羅であつて、手近き二三の圖例を求むるに、釋迦文院本覺禪鈔卷第百一、十卷抄第十等の方曼荼羅、觀智院所藏の圖像中の圓曼荼羅大正大藏經圖像第七卷がある。之等は何れも諸尊の像形配列等相近く、略同じ頃の成立と見得るものであつて、本圖また同軌に従つて圖繪されたる一例である。唯本圖が七星を現空の形に描けると、十二宮二十八宿の順序を逆にせるとの異なるを見る。

本圖は此の種の曼荼羅中の最優作であるが、なほ賦色の鮮豔と金彩の豊富なるに本邦佛畫中稀に見る明麗なる趣致を有つてゐる。今原色版によつてその一部を彷彿したが、見るが如き朱金色の空と群青の海とを後に、難陀の二龍王の取巻く須彌山に坐する赤衣金文の釋迦金輪尊を中心として、群青、綠青、紺三重の圓相に五彩と金線とを以て七星以下の五十六尊を現じ、二重の圓相、青緑の寶地等を飾るに凡て細密なる截金文を以てせるは、その整然たる構想と共に、光彩燦として天界の莊嚴を奪へるの感がある。

諸尊の相貌豊肥、描線生硬味なく、文様の種類と形式ともまた鎌倉以前に屬し、その藤末の製にかゝるは容易に斷じ得るが、用彩特に精醇にして金文また精巧を極めたる點に當代佛畫の技法を代表するに足りる。今參考の爲にその截金文様の種類を擧ぐれば、中尊に四花入輪違及び龜甲、第二重地に摺入花格子、第三重地に四花入輪違、寶地の中心に菊花文入枳形を連ねてその間を角繋ぎに

て埋め、之を圍むに菊花文の狭き一線を以てし、なほ角繋ぎの一帯を経て縁に
出繋ぎを用ひ、諸重の界線等には四菱繋ぎ、角繋ぎ、鉅杵繋ぎ等を置いてゐる。
而して所傳に北斗圓曼茶羅は延曆寺座主慶圓西紀九三一の始めて圖する所、方
曼茶羅は御室成就院僧正寛助西紀一〇五七の始めて描ける所と云ふのであるが、
今この圖を見るに、特に金彩多きは固より天上の尊形を圖するが爲なるべきも
この華麗を極むる用彩と、暈染及び雲網多き配色とには寧ろ古様の著しきもの
があり、圖相の如何は問はず、尠くも之等諸尊の描法には、その形相の傳來と
共に、遠く大陸の遺風を傳へてゐるかに見える。

なほ圓曼茶羅の遺例にはボストン美術館所藏の一幅がある。圖樣本圖と大同
にして諸尊の順位をも等しくするが、時代はやゝ下る。また方曼茶羅の一にし
て少しく異とすべきものに伊勢宇治山田法住院所藏の例圖版第三十六がある。即ち通
常の三重方曼茶羅の七星以下に尊名を記し、なほ七星に之を本命星とする干支
七曜に方位及び之を當年星とする年齢等、また十二宮に月名を添へたるほか、
第四重に、官人、僧侶、武士、童子等の諸形三十六を置けるものである。描法

内 外 彙 報

寶聚院落慶特別展覽會 醍醐天皇一千年御忌奉贊會の記念事業の一つとして
豫ねて建設中であつた京都醍醐寺靈寶館「寶聚院」は此程竣成し、去る四月十
七日落慶供養が営まれた。同館は醍醐寺所藏の幾多秘寶を完全に保存し、傍ら
研究に資すると共に又隨時展觀を催して一般の觀賞にも供する由である。建物
は日本古住宅風の耐火建築で、陳列室、寶庫、整理室、研究室等に分かれ、よ
くそれらの完全を期して居る。醍醐寺の如き我が文化史上の貴重なる一大寶庫
に對してかゝる施設のあるべき事はあまねく世の待望せし所、今これが成るを
見て、歴史、美術方面の研究にたづさはる者としての感謝は勿論、又一方文化

簡素にして截金文の如きも唯その内院に襷入四花格子を敷く外は諸重の界線等
に之を見るのみであるが、却つて其の間に雅趣を存し、製作鎌末を下らざるか
に思ふも、唯斷爛著しきを惜しむ。而して北斗曼茶羅にしてその外重に三十六
禽種子を配せるもあり、また一俗形を加ふるもありし如くであるが、未だかゝ
る圖相を説けるものを知らず、擧げて後考に俟ち度い。(渡邊)

三六 雲中供養佛

京都 平等院 藏

木造彩色 (田中喜作「鳳凰堂雲中供養佛の研究」參照)

七 石圃筆山水圖

東京 村山駒之助氏藏

紙本淡彩 挂幅裝 竪四五・五厘 (一尺七寸九分九厘)
横四二・九厘 (一尺四寸一分六厘)

八 石圃筆山水圖

東京 宮野富次郎氏藏

紙本淡彩 挂幅裝 竪二八・四厘 (九寸三分七厘)
横六五・五厘 (二尺一寸六分二厘)
(以上梅津次郎「石圃叢考」參照)

保存の社會的責務を果し得るものとして誠に欣びに堪へぬ次第である。

尙、落慶供養を機に同寺秘寶の特別展觀が四月末日まで行はれた。その内容
は國寶、寺寶の宸翰、佛像、佛畫、文書、記錄、器物等約六十三點、一山の什
寶の莫大な數に比しては少ないが、そのいづれも秘寶中の逸品にて、流石に一
千有餘年の歴史ある同寺であると首肯せしめる。それ等のうち繪畫彫刻の作品
に就いて其の目を左に擧げる。(中川)

過去現在因果經 卷第三 一卷 普賢延命菩薩畫像 一幅
大日金輪王畫像 一幅 娑婆天畫像 一幅

星
曼
茶
羅

奈良縣
法
隆
寺
藏